

# 共生

～やまぐち自然派宣言～

No.  
**21**  
令和4年3月発行

❖ 寄稿「寂地峡のカタクリ」

井上 佑

❖ 表彰受賞者

祝 環境保全活動功労者等知事表彰

あなたと NAGATO を結び隊

祝 やまぐち自然共生ネットワーク会長表彰

(令和2年度受賞) 植田 高弘      櫛崎 アツ子

(令和3年度受賞) 福田 清治      松田 茂

❖ 特 集

第17回リーミーティング in 防府

みんなの思い出写真館

❖ お知らせ

## ◆寄稿 「寂地峡のカタクリ」

### 井上 佑（個人会員）

寂地の山名は、しゃくし川がルートである。平安時代に犬戻の溪谷で、ノブ・ホオ・ボカ・ユブシ等落葉広葉樹から、杓子（しゃもじ・玉杓子）が作られ、町に運び売られた。『防長風土注進案』須川村には「大川の事但宇佐村しゃくし山を水源として宇佐郷村を経て当地へ流来る」と記され、宇佐八幡宮と周辺の寺社には大しゃもじが奉納された。寂地は当て字で、明治三十二年の事。

昭和十五年に先輩が登り、鬱蒼とした樹木で頂上も分ならず彷徨し、植物、昆虫調査は羅漢山で成果を上げた。宇佐小学校五、六年生の遠足は、小学校から常国を経て寂地山に登るが、茅漕ぎで腕力の無い女子は頂上に行けない子もいた。彼女等は「寂地山にカタクリは無かった」と云う。

昭和三十八年の山口国体炬火の採火地として、菅茅を鎌で刈り、小屋の屋根壁を葺き、神主が採火の神事を行った。これで容易に山頂に登れるようになり、石碑「炬火採火の地」を立て寂地山頂と確認できる。錦町は、火起こしの「がくがく岩」で採火をしたいと申し出、実地調査では島根県内

に在り県から却下された。これは五万地形図「津田」の誤りで、陸軍測量部が明治三十二年に測量製図の際、山口、島根両県の了解も得ずに境界線を勝手に記した。「がくがく岩」は寂地山頂の北方の額々山（宇佐ではヨケ岩と呼ぶ）の北西の標高二二五〇メートルの二枚重ねの岩を云い、分水嶺が境界だった。この河津峡源流部一帯が江戸時代は周防国で、「防長地下上申絵図」に記されている。

自分が寂地山に最初に登ったのは、中国自動車道の工事が始まった頃で、寂地山頂から小五郎山へ縦走予定が、南西の尾根は茅の密生で周囲は見え、足は茅に挟まれ地に着かず倒れ茅を掴むが立ち上がれない。多くの茅原を歩いたが、人も獣も動きが取れない濃密な茅密生帯は寂地山だけである。仕方なく、尾根の側面を歩き、支尾根を下り戻るを繰り返し、漸くして右谷山に着き三角点の傍にカタクリが二輪だけ咲いていた。ここを下ると熊笹が増え、容谷山から下った。

昭和六十一年夏、インターハイ登山競技は、十種ヶ峰等と共に寂地山でも行われ、寂地尾根の菅茅が草刈り機で刈られ登山コースを開き、全国から集った高校生と共に、自分も五龍の滝から登り、寺床尾根を下った。西中国山地国定公園の整備も進み、浦石峡とも結ばれ、遊歩道が拡がった。

かつて、右谷山にカタクリが僅かに在ったのは、三角点を設置する為にメートル余も掘り下げたので、そこだけ茅が絶えたのでカタクリが生存出来た。尾根の茅が刈られ、取って代わったのは熊笹で、笹は茅ほど密生しないので、陽も当たり、笹根の間にカタクリが殖えて、寂地山頂近くまで登った。

カタクリはユリ科の多年草で、落葉広葉樹の下だけで生存し、地上には四、五月の二ヶ月足らずしか出ない。出ると葉を出して、光合成で養分を地中の鱗茎に蓄え、花を咲かせ蜂に受粉してもらい、花が種になると、蟻が巣に運び脂質糖分を食べ、巢外に散布、これに花が咲くのは八年後だ。ブナの葉が茂ると根茎は地中で夏秋冬を過ごす。

このカタクリの花の増殖によりカタクリ見物客が増え、多くは寂地林道を車で登る。九合目の「延齢水」の水質調査を八月に五年間続けたが、カタクリの花が増えると登山者も増え、水質も悪化し、遂に大腸菌を検出し、「大腸菌有、下の沢水使用」の張り紙をしたが、検査が三月ならどうだったか。大腸菌の検査が一番大変で、下界なら恒温器が有るが、山中であり、検体を自分の体幹に巻き付け、試薬に付けた湧水を八時間程自分の体温（三十七度）で保温培養し、帰宅して菌数を数える。しかし、その後の不景気で日本山岳協会へ試薬の提供が止まり、水質検査は終了した。

## ◆環境保全活動功労者等知事表彰

### あなたとNAGATOを結び隊

隊長 久保田 啓子

令和三年度環境保全活動功労団体として、「あなたとNAGATOを結び隊」が知事表彰をいただきました。隊員一同、身に余る光栄と感謝の気持ちで一杯です。

私たち「あなたとNAGATOを結び隊」は、平成二十一年五月に、長門の自然、歴史、文化、産業、食等地域の資源を再発見し、各地域の人を結ぶことにより、地域の活性化及びまちづくりに貢献することを目的として設立しました。その後、長門市内を自分たちの足で歩きながら、コースづくりやウォーキングイベントなど、地域の魅力を発進する活動を行ってきました。

この度の受賞は、旧街道を掘り起こし、赤間関街道北道筋、北浦道筋等で定期的にウォーキングイベントを開催したり、森の中の旧街道を散策しながら、自然観察やごみ拾い、環境整備を行うなど、地域ぐるみの環境保全活動に取り組むとともに地域振興にも貢献しているということを認めさせていただきました。

毎年、イベントを開催するにあたり、コース整備として旧街道の倒木の撤去や崩れた個所の修復を行い、急斜面の足場づくりやロープ張り等、

自然を壊さず歩きやすいコースづくりを行っていきます。そして、イベント当日は、ごみ拾いをしながら、子どもから高齢者まで自然観察学習をし、参加者同士が交流できる場も提供しています。また、平成二十三年に子どもたちと一緒に手づくり案内看板の設置をしましたが、これも整備活動を行いながら、定期的に杭のうち替えなど補修も行っています。

今年度（令和三年度）は、イベントまでに二回街道の整備を行い、倒木撤去、草刈り等を行っています。この活動に終わりはありません。年に数回は必ず整備しないと道はなくなってしまうことも実感しています。この旧街道の一部と平行するように、山陰道「長門・俵山道路」が平成元年に開通しました。この道は、地域住民の待ちに待った道です。毎年のイベントを通して、何もない山の中に道が出来ていく様子を見ることが出来ました。また、工事現場の見学会を行った年もありました。でも、自然環境も少し変化し、今まで林だったところに陽が当たるようになり、草の生える場所が数カ所増えました。気をつけないとすぐに草が茂ってしまい道を隠してしまいます。それと、毎年参加される方

もおられるので、内容も少しずつ変えており、今年度は帰りに県道（山陰道が出来るまでは主要道路）を通り、ごみ拾いを行いました。約一時間、一キロメートルくらいの区間での活動でしたが、車からの投げ捨てか、ほとんどがガードレールの外側で、中には家電の不法投棄も見られました。

今回の受賞は、地道にコツコツと活動を行う私たちにとって、とても励みになりました。年度末の三月には、コロナ禍でも出来ることをと、社会教育団体から小学生親子で歴史の道を歩きたいのでガイドをしてほしいと依頼がありました。また、クリーンプロジェクトを行う高校生からは、ごみ拾い出来る活動はないかと問い合わせがあり、今回「あなたとNAGATOを結び隊」のメンバーとして、参加してもらったことにしました。これからも、地域の方々と一緒に自然を守る活動が続けていきたいと思っています。



街道整備（草刈り）



街道整備（倒木撤去）



回収したごみ

## 蓋井島（下関市）

### 県指定ヒゼンマユミ群落自生地

#### 保全活動

植田 高弘

（山口県自然観察指導員協議会）

#### 一 はじめに

山口県自然観察指導員協議会第五支部の先輩指導員である田辺護氏から、蓋井島のヒゼンマユミ群落は、モウソウ竹の侵入により、竹林化したところがある事実を知りました。そこで、第五支部は予備調査を平成二十年（二〇〇八年）四月二日（日）に実施した結果、自生地の竹林化を確認し、本部と協働して竹の伐採作業を行うこととしました。

#### 二 第一回作業日（環境学習日）

平成二十一年（二〇〇九年）二月二十二日

平成二十年十月十一日（土）、第一回作業日に併せて環境学習日を設定しました。山口県自然保護課職員、しものせき竹取物語の皆様（十三名）、そして、黒田義則会長（当時）を始めとする山口県自然観察指導員協議会メンバー（十名）の総勢二

十五名で開催しました。当日は晴天でしたが、風波が多少あり、渡船では時々大きな揺れを感じました。島に着いて、指定地の所有者である松本さんの歓迎を受け、港近くの漁協会館前で、本活動の発起人である田辺護指導員がヒゼンマユミについて解説しました。さらに、平野正指導員が伐った竹の処理方法を説明しました。現地に着いたのは、正午前でした。現場は急な斜面が続いており、竹を伐るのは余り時間がかかりませんが、伐った竹を処理（横積み）するのに時間がかかるのです。竹同士が絡んだり、竹と樹木が絡み合ったりしているのです。約二時間の作業を終えて帰路に着きます。途中、斜面で足を滑らせる人が居たので、一步一步、確実に歩を進めるようお願いしました。

#### 三 春の竹伐り作業

平成二十七年（二〇一五年）

五月十五日

今回は植生調査を実施しました。

田辺指導員と予め話をしていた事を、参加者の松崎さん、松田さん親子にやってもらうことにしました。ヒゼンマユミの若木調査については、竹伐り作業がある程度目途が付き始めた頃から、各人が作業の合間に目

視をしたり、周辺の植物の名前を知ったり、確認したりすることで少しずつ数の確認はしていました。

調査は始まったばかりなので、皆さんに伝えられる段階には程遠いのですが、ヒゼンマユミの若木は着実に確認できるようになりました。四月は宿泊しましたので、二日目、道の補修と生息地域の山道の調査、確認等を行いました。五月は未明より、雨が降り始めてしまいました。四月にやり残したところもあり、五人で実施することになりました。しかし、雨は昼ごろまで弱いながらも降り続いて、作業や道歩きに影響が出ました。作業日前日や当日未明の雨については、何らかの影響があることも分かりましたので、今後の検討課題にしたいと思います。



環境学習日の様子



竹を横積みしたところ

#### 四 十二年目の保全活動へ

令和元年（二〇一九年）十二月十日

課題として、次の三点が挙げられます。

- 【一】 高齢化による参加者の減少
- 【二】 地元住民の方々とどんな協働作業が出来るのか
- 【三】 植生調査をどのように進めて（まとめて）いくのか

#### 五 おわりに

今回の活動を通して、私達第五支部は、人との絆が最も大切であるということを感じた次第です。山口県自然保護課、山口県ひとづくり財団、貴会、NPO等々、多くの団体、個人の方々にお世話になりました。厚くお礼申し上げます。

最後に、私の携帯に貴会元顧問の開村修三様から「蓋井島のヒゼンマユミ保全活動に参加したい」旨の電話をいただいております。ヒゼンマユミを気にかけていただいたことに感謝しますと共に、ご冥福をお祈りいたします。

## 令和2年度・令和3年度 やまぐち自然共生ネットワーク会長表彰式

令和3年12月19日（日）に開催しました「第17回リレーミーティング in 防府」において、令和2年度及び令和3年度やまぐち自然共生ネットワーク会長表彰受賞者の表彰式を開催しました。

受賞された皆様、誠におめでとうございます。

今後とも御健康で、より一層の御活躍をお祈り申し上げます。



松田 茂様

福田 清治様

久保田会長

榎崎 アツ子様

植田 高弘様

## 私のボランティア活動

櫛崎 アツ子

(山口ささゆり会)

私が初めてボランティア活動に足を踏み入れたのは、平成十六年に岡山県の閑谷学校で開催された視覚障害者の全国大会からです。故・開村先生に誘われ、たくさんのお支えを頂きました。歩き方、時計回りの食べ方など、私にこんな事が出来るのであるかと不安が心に波を打ちました。しかし、活動を行う中で、私は皆さんから笑顔を受け、力になるうという気持ちになりました。そして、全国の皆さんの笑顔に喜びを感じ、感謝しながら活動に力を注いでいます。

今では、開村先生の後を継ぎ、多方面からいらつしやる皆さんが、月に一度、万葉の森(周南市立公園)に集う「歩こう会」を開催し、皆さんの手となり足となつて、森の中を歩く楽しさを教え、笑顔を送っています。花の香り、鳥の鳴き声などを五感で味わいながら、前に進みます。皆さんと和気あいあい話し合いながら歩き、教わる事もたくさんあり、勉強になります。

楽しみのひとつ、年一度の日帰り旅行もあり、皆さんイキイキとした動作で、意気込みが違いま

す。開村先生との思い出である、周防大島のみかん畑では、瀬戸内海の潮風を受けて、草刈りや、肥料をやり、人には言えない苦労もありました。収穫する時の喜びや楽しさは、疲れも忘れるほどで、今では懐かしく思います。

平成十八年には、山口ささゆり会の皆さんと、目の不自由な方とともに、槍ヶ岳三二八〇メートルに挑戦しました。難関や苦労もあった事と思いますが、皆さんのお支えもあり、無事登頂することができました。目の不自由な方が力強く歩く姿を見て、生きる喜びを感じられたことでしょう。私自身も生きる喜びを感じました。

平成二十年十月、山口ささゆり会が、視覚障害者の全国の引き受けになりました。全国から四五〇名が、徳地青少年自然の家(山口市)に集いました。散策コースと登山コースに分かれ、萌岳

白石山、日暮ヶ岳へ。県から山岳隊の応援を頂きました。たくさんのおもてなしも頂き、盛大に終わることができ、「山口に来て良かった」という言葉もたくさん頂きました。

「安心安全、笑顔」が開村先生のモットーでした。今回の大会は九州の大分県ですが、コロナ禍で延期となる予定です。障害者の皆さんは、外へ出る喜びが待ち遠しいみたいです。

周南市老人連合会に所属し、月一度、児玉源太郎旧宅跡である児玉神社や公園などを清掃しています。市内各地の畑で、玉ねぎやさつま芋などを植え、収穫したものを、市の施設にお届けし、お喜び頂いております。愛情をこめて耕し、新鮮なお野菜を作りお届けしたいと思っています。

私にとって忘れることの出来ない思い出は、平成二十四年十月、故・開村先生とネパールの四七〇〇メートルの山に登ったことです。足を下ろした瞬間、目の前は美しいエベレストの雪山でした。心を綺麗に洗い流して頂いたようでした。ネパールは貧富の差が激しく、道の側で横たわる子供達の姿を見て心が痛み、日本という国はとても美しい国だと痛感しました。

一日も早くコロナ禍が終息することを祈りつつ、健康を維持して皆さんの笑顔を送って活動に専念したいと思っています。

活動は好きであること感謝。



視覚障害者の方の登山サポート



忘れられないネパールの山の思い出

## 「三百五十種の山野草の花が咲く 生きた図鑑の森」残したい…後世に

福田 清治

(「山野草のエキ」保存会代表)

六年前の春…、ある方から「鹿野の人達は冷たいねえ、山野草のエキが年々荒れている状況を知っていないのだろうか。伊藤芳高さんが十七年もの歳月を掛け、二万八千平方メートルの山を三百五十種類もの貴重な山野草の花が次々に咲き、

多くの人が本当に楽しめる地域の宝だと言うのに。今…九十二歳の伊藤さんは老いに勝てず、猪により山野草は踏み倒され、倒木が覆い被さり、草や熊笹が蔓延り、どんどん荒れ、このまま数年経てば、ただの荒れた山になりますよ…」とそんな話をされた。

私はその当時、あまり山野草や花には興味も無く、ピンと来ない話でした。しかし時間が経つに連れ、この話を放つといていいものなのか、その当時、私はカフェを営んでいましたので、山野草のエキを見学された人が客人として私の店を利用されていた事もあり、何となく気になり、何となく軽い気持ちで数人の仲間に山野草のエキが

荒れている事と、保存会を立ち上げる話を相談すると、「いいね」と答えが返って来ました。

それが保存会の始まりです。最初は本当に軽い気持ちでした。会の名前も「山野草ノエキ」保存会とし、5名からスタート。

今振り返れば、最初から苦戦したものです。なせ広大な山すべてを猪の侵入から守るための柵を手配し、その柵で囲いをしないと活動が前に進まないのですから、行政に相談しても個人の山に助成は無理と言われ、資金をどう工面するかで頭を抱えた事を思い出します。でも世の中その気になれば何とかなるものです。

現在では、遠くは山口市や岩国市と広範囲から多様な経歴の人達三十二名が参加され、隔週での活動は決して楽なものではありませんが楽しくやっています。

保存会を立ち上げた時の話に戻りますが、実は当時、大事な保存会を引き受けて本当に大丈夫だろうかと、軽く引き受けた事に後悔し、真剣に悩みました。只この六年間は夢中で保存活動を仲間と進め、草刈、遊歩道の整備、山野草の苗を手配し植栽作業と、植栽を行えば、次に水やり、種類別のプレート制作、誘導看板の設置、時には雪の降る寒い日も、雨の中雨具を着ての作業と皆さん本当に良く頑張りました。活動を通じて一番大変だったのが二万八千平方メートルにも広

がる広大な土地に、二十年近く放置された倒木。さすがの伊藤さんも倒木には手が出せなかったでしょう。この倒木は見た目が非常に悪く、残骸が至る所に山積みされ、花も森も見栄えが悪く、この倒木を処理しないと前に進めないので。そこで意を決して、一番寒い冬に搬出を決行。搬出するには全て手作業で山から降ろさざるを得ないのでから大変、しかもこの作業を一週間以上続けないと終わらない、本当に骨の折れる作業で



寒い雪の中の作業 (2017年3月15日)



倒木の搬出作業 (2018年12月10日)



園内のミズバショウ  
(2021年4月14日)

した。今も思い出されるのが、女性数名が重たい倒木を一本一本担ぎ出して頂いた事には心から感謝と勇気も頂きました。

そんな事も含め保存会も七年目を迎えますが、この間、県内外から多くの人々が山野草を見学に来られています。貴重な花々が苦勞もせず容易に、車から降りて直ぐに見られる事もさることながら、山野草のエキに立たれて、伊藤さんが十七年の年月を掛け一人で毎日毎日、熊笹の駆除、雑木の間引き、小道を作り、橋を架け、草を刈り、山野草の苗を一株一株植栽、水やりを行い、考えただけで気の遠くなる作業です。この作業を一人で十七年間、九十二歳までされた事を思えば、一輪の花の輝きがとても尊く見えて来ます。

想像して下さい。私達は伊藤さんの歳に成る迄に何年有るでしょうか、まだまだ志を持っては何だつて出来る、そんな不思議な力を山野草のエキに立てば元気や力が湧いてきます。皆さん：貴重な花から元気を頂きましょう、伊藤さんのご苦勞を想像して勇気を頂いて下さい。

我々保存会メンバーも元気を頂きながら「三百五十種の山野草の花が咲く生きた図鑑の森」の保護活動をつづけています。

## 令和2年度・令和3年度 やまぐち自然共生ネットワーク会長表彰受賞者

### <令和2年度受賞者>



〔氏 名〕植田 高弘 様  
〔活動場所〕主に下関市  
〔活動歴〕平成20年～現在  
〔活動概要〕  
下関市蓋井島に生育する県指定天然記念物ヒゼンマユミの保全活動に尽力。

### <令和2年度受賞者>



〔氏 名〕榎崎 アツ子 様  
〔活動場所〕主に周南市  
〔活動歴〕平成5年～現在  
〔活動概要〕  
視覚障害者の方の登山や自然観察のサポートのほか、清掃等地域活動にも尽力。

### <令和3年度受賞者>



〔氏 名〕福田 清治 様  
〔活動場所〕主に周南市  
〔活動歴〕平成22年～現在  
〔活動概要〕  
前会長の跡を継ぎ、「山野草のエキ」保存会会長として、山野草の保全活動に尽力。

### <令和3年度受賞者>



〔氏 名〕松田 茂 様  
〔活動場所〕主に周南市  
〔活動歴〕平成13年～現在  
〔活動概要〕  
視覚障害者の方の登山などのサポートのほか、自然保護に関する普及啓発活動にも尽力。

## 松田 茂

この度は身に余る会長表彰を頂き感謝しております。

実は二〇〇〇年頃に、故・開村修三先生とは養成講座の講師仲間として出会いが始まりました。開村先生はアウトドアに明るく、自然と共に生き、海に潜り、山に登る、数学教師と言う異色の人でしたことは皆さんご存知のところですよ。

一方で、開村先生は障害福祉の実践にも取り組まれておられました。受講生と、車椅子やアイマスクでバリアフリーとはどのようなものかなど、体験を交えて教えられました。また、仲間を集めて、山道の整備や視覚障害者支援など地道な努力をしてこられました。

開村先生はこれまで視覚障害者全国交流登山大会を企画運営されており、私は、岡山県和気アルプス、山口市徳地の青少年自然の家を拠点とした苅ヶ岳、白石山、乗鞍岳、比叡山などの登山を、視覚障害者と寝食を共にし、サポートをさせて頂きました。食事の補助、夜のトイレなど大変でしたが楽しい思い出もたくさんありました。

私は、開村先生の遺志を引き継いでおり、仲間と共に視覚障害者と集まりウォーキングを続け

ております。視覚障害者は障害を持っていても、健全者と同じ体験をしたいとの思いを持っており、目が見えないが、だから得られる体験、感動を話してくれました。登山の際、頬を伝わる爽やかな風の心地良さ、木々に触れゴツゴツやスベスベの肌触り、葉っぱや蕾からの香りが心を癒してくれるなどの感想が聞かれました。

個人的には

一 私は田舎生まれで、小さい時から親に連れられ、植林や下刈、間伐に行っており、山への親しみは持っていました。

二 周南市八代にある本州唯一のナベツル渡来地のねぐら整備に参加しました。今年は二十八羽（令和四年三月五日時点）が飛来してくれ、今後が楽しみです。

三 徳山動物園においてボランテニア活動をしました。動物観察や子供達への説明、さらに象のうんちを晒してシオリ作り、象のうんちでの肥料作りなどを体験させました。子供達の眼の輝きが印象的でした。

四 現在、精神障害者の居場所「憩いの広場」を運営しており、徳山西緑地公園や徳山動物園に連れて行っています。

五 二〇〇〇年三月～二〇〇一年五月にかけ、周南市の太華山山頂（三六二メートル）で

四十回以上デートを重ねました。ほろほろ鳥との出会いです。羽根に斑点があり、大きさはワトリ位で上手く飛ばません。誰が連れて来たか不明。会いたくて会いたくて餌を持って登りました。餌は、その時自宅にある食べものです。餌やり、芸の仕込み、羽根集めなど「ほろほろ日記」を作りました。餌を与えるうち、ほろほろ鳥の好み判り、穀類（米、パン）が一番、果物（ミカン、ポンカン、りんご、いちご）が二番、好みで煮干し、チョコレートも良く食べました。一年余りで姿を見せなくなりました。人懐こい性格の為、誰かについて行ったようです。その後、半年間通ったけれど会えませんでした。

これからも仲間と共に自然を守り、活用して行くよう活動したいと思っています。有難うございました。



ほろほろ鳥（画：筆者）



ほろほろ日記（一部抜粋）

◆第十七回リレーミーティングin防府

参加者	場所	日程
十九名	防府市	令和三年十二月十九日(日)

スケジュール

9:15~9:30	「午前の部」受付
9:30~9:40	① 開会式 (オリエンテーション)
9:40~10:30	② 東大寺別院阿弥陀寺 散策 (ガイド付)
10:30~10:45	(移動)
10:50~12:00	③ 防府天満宮 散策 (ガイド付)
12:00~12:30	(移動)
12:30~13:00	(昼食)
13:15~13:30	「午後の部」受付
13:30~14:20	④ やまぐち自然共生ネットワーク会長表彰式
14:20~14:30	(休憩)
14:30~15:15	⑤ 活動発表 (阿弥陀寺アジサイ保存会)
15:20~15:30	閉会式



※活動発表では、地元防府市の「阿弥陀寺アジサイ保存会」林様（東大寺別院阿弥陀寺住職）から、阿弥陀寺の歴史や、例年開催しているアジサイ祭などについて紹介いただきました。

◆みんなの思い出写真館

「自然」に関する写真を大募集中！

皆様が撮影された思い出の一枚を会報誌に掲載してみませんか？撮影時期は問いません。美しい風景等とっておきの一枚をお送りください。詳しくは、最終頁「お知らせ」をご覧ください。

【世界最大級のアワサングの海】



〔撮影時期〕 令和3年12月  
〔撮影場所〕 周防大島町  
〔撮影者〕 H.N 様

【クマゼミの交尾】



〔撮影時期〕 令和3年7月  
〔撮影場所〕 光市  
〔撮影者〕 藪博昭様

【異色の花卉の持つ梅】



〔撮影時期〕 令和4年3月  
〔撮影場所〕 萩市（萩往還梅林園）  
〔撮影者〕 広報担当

【雪の日の瑠璃光寺】



〔撮影時期〕 令和4年2月  
〔撮影場所〕 山口市（瑠璃光寺）  
〔撮影者〕 広報担当

【東鳳嗣山からの眺望】



〔撮影時期〕 令和3年12月  
〔撮影場所〕 山口市（東鳳嗣山）  
〔撮影者〕 H.N 様

【冬の元乃隅神社】



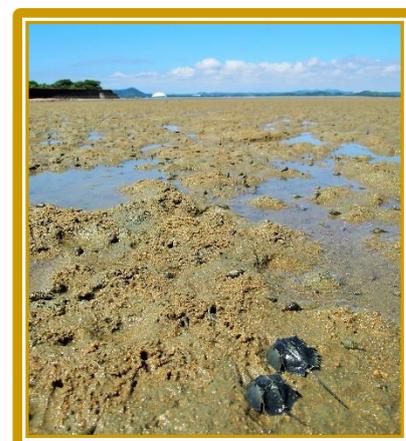
〔撮影時期〕 令和4年2月  
〔撮影場所〕 長門市（元乃隅神社）  
〔撮影者〕 S.K 様

【赤く染まる紅葉】



〔撮影時期〕 令和3年11月  
〔撮影場所〕 下関市（覚苑寺）  
〔撮影者〕 S.N 様

【カブトガニと干潟】



〔撮影時期〕 令和2年8月  
〔撮影場所〕 山口市（山口湾）  
〔撮影者〕 上原正義様

## ❀ やまぐち自然共生ネットワーク「サクラ部会」について ❀

令和4年度に、やまぐち自然共生ネットワーク内に「サクラ部会」を設置予定です。  
サクラの管理等にお困りの方やご興味がある方は、ぜひご入会ください！



### サクラ部会の目的等

サクラの適切な保護・管理方法等の普及啓発を通し、地域の豊かな自然環境を守ることを目的とする。

〔設 立 時 期〕 令和4年度通常総会時

### サクラ部会への入会方法

サクラ部会（以下「部会」という。）への入会は、やまぐち自然共生ネットワーク（以下「当会」という。）への入会申込と併せて行うこととなります。

- ・部会に入会すると、自動的に当会へ入会したこととなります（部会のみ入会はできません）。
- ・会費は、当会会費のみとなります。（個人 1,000 円／年、団体 2,000 円／年）
- ・既に当会会員となっている方で、部会への入会希望の方は、当会（裏面の連絡先）へ入会希望のご連絡いただくことで、入会できます。

### サクラ部会の活動内容

- ・サクラの管理に苦慮している個人又は団体に対し、適切な管理方法等を助言する。
- ・各地域のサクラ保存会等の情報共有の場とする。

### サクラ部会設置に向けた事前活動報告

令和4年2月に、長門市2箇所において、中村顧問（樹木医）、久保田会長等立ち会いのもと、サクラの植樹を行いました。

今後、県内のサクラ保存会等に対し部会への勧誘を進めてまいりますので、情報提供等よろしくお願ひします。



▲長門市俵山ラグビー場にてサクラ（舞姫）3本を植樹しました。

▲長門市西深川の「喫茶ショアーズ」にてサクラ（大漁桜）1本を植樹しました。

## ◆やまぐち自然共生ネットワークからのお知らせ

### ◆ホームページについて

やまぐち自然共生ネットワークのホームページでは、本ネットワークの情報のほか、会員の皆様が個人又は団体で主催するイベント情報等を発信しています。ぜひご覧ください。

各種情報をホームページへ掲載希望の方は、広報担当（裏面の連絡先）までお知らせください。

### ◆新規会員募集について

令和四年三月一日現在の会員は、

＊団体会員 三十五団体

＊個人会員 九十六名

自然にご興味がある方など、どなたでも大歓迎です。一緒にネットワークの輪を拡げましょう。



防府天満宮



東大寺別院阿弥陀寺

### ◆会報誌について

会員の皆様から、次の2点を随時募集します！

・自然に関する記事（寄稿文）※

・自然に関する写真※

「自然」をテーマに、皆様の活動紹介や、日常で発見したささやかな出来事など、何でも構いません。ご協力いただける方は、広報担当（裏面の連絡先）宛て、お気軽にお送りください。

※自然に関する記事（寄稿文）については、「タイトル」「執筆者氏名」をご記入ください。

・参考文献等ある場合は、著者名等をご記入ください。

・原稿に写真を添える場合は、写真データも併せてお送りください。

※自然に関する写真については、「タイトル」

「撮影時期」「撮影場所」「撮影者氏名

（ニックネーム可）」をご記入ください。

・ご自身が撮影されたものに限ります。

・誌面の都合上、横向き撮影されたものをお送りください。

・被写体に人物が含まれる場合は、肖像権の侵害等が生じないように応募者本人の責任においてご確認ください。

### ◆編集後記

新型コロナウイルスが世界的に流行し始めてから2年が経ちます。以前のように、気軽に友人と会ったり、自由に旅行へ出掛けたりということが難しい世の中になってしまいました。こうした中、3密を回避できる場を求めて、大自然の中で遊べるアウトドアが空前のブームとなっているようです。私自身も、新型コロナウイルスが流行する少し前から、月に一〜二回、登山をするようになりました。登山と言っても、初心者なので、登山道がしっかりと整備された標高千メートルにも満たない低山中心です。登っている最中は、日頃の運動不足もあって「何でこんなに頑張っているのだろう」と、つい思ってしまうこともあります。頂上から眺める素晴らしい景色と達成感で、また次も登りたいという気持ちになります。

いつか新型コロナウイルスが収束した頃に、西日本最高峰の「石鎚山」を登ることが今の小さな夢です。



湯野観音岳 (周南市)

\*\*\*\*\*

このたび執筆いただきました皆様には心よりお礼申し上げます。ご意見等お待ちしております。

広報担当 中村

〈 表紙写真 〉

防府市「海が見える『花の園』（新築地緑地公園）」の河津桜  
(令和4年3月 広報担当撮影)

## やまぐち自然共生ネットワーク

～次世代につなごう美しいやまぐちの自然～

〔総務・企画担当〕 岡村 安彦（事務局長）

〔広報・会計担当〕 中村 佐和子

広報関係 お問い合わせ先

〒753-8501

山口市滝町1番1号 山口県環境生活部自然保護課内  
やまぐち自然共生ネットワーク広報担当

(TEL) 083-933-3060 (FAX) 083-933-3069

(E-mail) a15600@pref.yamaguchi.lg.jp

ホームページ

<http://www.yama-kyou.net/>

E-mailアドレス

[info@yama-kyou.net](mailto:info@yama-kyou.net)